

「らくらく」でプラス10年、仕事を楽しむ農業改革（下市町）

課題（状況）

- ・高齢化の著しい進展により衰退傾向にある農林業の活性化が喫緊の課題（最大斜度20度を超える急斜面で重量のある柿の大規模生産を行う柄原地区では後継者難と地域社会崩壊の危機に直面していた）

目標（数値）

- 重労働な農業現場の課題を「楽に、楽しく」解決する「らくらく農法」により“10年延長して畠仕事が楽しめる”環境を構築
- ・柄原区長、奈良女子大学、県農業開発センター、地元企業で協力、「高齢営農者を支える『らくらく農法』の開発」

具体的取組

- ①「らくらく農法プロジェクト」の開始
- ・集落点検－地区の土地利用状況、住民や血縁者に関する情報など地域の実情把握
- ・からだ点検とらくらく体操実施－住民の身体状況を把握、改善を目指す「PPK」の取組み
- ・電動運搬車らくらく号開発－高齢者の農作業をサポートする安全・簡単な運搬車製作
- ・果樹から軽くて楽な柿葉生産へのシフー柿葉のらくらく栽培技術の普及と販売先の確保
- ⑥・高齢者の営農を10年長く継続することとの目標が明確であった
- ・プロジェクトが細部に至るまで計画され、役割分担のもと多様な機関・人材が参加
- ・専門部署（地域づくり推進課）が設置され、業務横断的取組が可能となった

・過疎地域等に対する
喫緊のかつ台に対応して
過疎集落等自立再生
対策事業など過疎地域
対策が手厚くなっている

規制・環境変化

・集落の住民が自ら考え、
行動する意識の醸成を
図り、地域活性化に意
欲的に取組み集落を支
援する“元気印事業”を
予算化（H24～）

解決

下市町プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源 人材

支援政策 協力者

产学連携 技術

多職種連携（3師会、
訪問看護ステーション、
栄養士会等）

東大IOG、シ
ルバー人材セ
ンター

・「らくらく農法」研究グループ
(奈良女子大学 寺岡教授、奈良県農業
研究開発センター・果樹振興センター、三晃
精機(株)、下市町が役割分担のもと実施)

成果（数値）

- ・「柿葉生産ならできる」と営農を継続する高齢者の増加
- ・町内CATVでの放映、シンポジウムの開催などによる内外での知名度向上/注目度の高まり
- ・業務横断的な地域づくり推進課の設置によるスムーズな施策立案・実行
- ・下市町観光協会の設立—優れた観光資源を活用した観光事業への取組み

地域の変化

- ・「らくらくプロジェクト」地域の協働での“産業おこし”となっており、これに続き『経済的自立』を目指した取組が出てきている
- ・行政と上手く協働し、事業に立ち向かう独立心豊かな住民が生まれてきている

残る課題

- ・柿葉生産は50万枚を超える需要増大にともない、生産者の拡大・確保が必要
- ・柿の葉寿司に活用できる柿葉は2～3割であり、規格外品の有効活用が必要
- ・農産加工施設整備、新たな食の発掘など持続的な活性化事業の実施

次の行動

- ・柄原地区に加え、町内や御所市、葛城市等県内他地域での柿の葉栽培の拡大
- ・柿の葉の研究開発や柿葉以外の産物への試行等産業、技術両面からの取組を実施